保守団結の会

生ある限り祖国に尽くす
日本を護る自民党保守派国会議員100人



自民党保守団結の会編著



「かけがえのない
同志たちと共に
日本列島を強く、
豊かにします」

高市早苗











水野よしひこ

（衆議院議員・愛知３区）

時間を受け継ぐ政治

昭和 48（1973）年、愛知県名古屋市生まれ。私立東海高等学校を経て東京大学法学部第１類卒業。小学生時代から陸上競技部、宮崎では青島太平洋マラソンで完走（5 時間切り）。趣味は街歩き、食べ歩き、フルート、歌。平成 8 年通産省入省、平成 12 年外務省在瀋陽日本国総領事館、平成 19 年米国シラキュース大学留学、平成 25 年宮崎県警察本部警務部長、平成 27 年厚労省医薬・生活衛生局総務課薬事企画官、平成 29 年中小企業庁事業環境部企画課長、令和 4 年製造産業局化学物質管理課長、令和 6 年内閣府健康・医療戦略推進事務局参事官、同年 9 月公募に応募し自民党愛知県第三選挙区支部長に選任、令和 8 年の衆院解散総選挙に立候補し初当選。現在は経済産業委員会委員、東日本大震災復興及び原子力問題調査特別委員会委員。

時間は受け継がれる

政治とは、未来への責任を引き受ける営みである。そう考えてきた私には、右か左かという対立の中で政治が語られることに違和感がある。大切なのは、受け継いだものを次へ託す責任である。

未来のために変える

では、その責任を果たすためには、何が必要なのか。

未来への責任とは、現状維持ではない。そのことを、一つの炭素繊維工場で教えられた。行政官として数多くの現場を歩いたが、この工場だけは忘れられない。工場の担当者は巨大な設備を前に、静かにこう語った。「条件を一つ変え、また一つ変えながら、何十年も積み重ねてきた経験だけは簡単には真似できません。」その言葉に、日本のものづくりの強さを見た。技術とは設備ではない。人が時間をかけて積み重ねた経験そのものなのだと教えられた。

積み重ねとは、時間そのものの力である。

積み重ねが国をつくる

日本の強さは、この積み重ねにある。私の問いは、いつも同じところへ帰っていく。日本人とは何か。

司馬遼太郎もまた、この問いを生涯問い続けた。そして日本人を語るとき、「常識」「節度」「公共心」という言葉を繰り返し用いた。この三つの言葉に、日本人らしさがある。

特別な思想ではない。

約束を守る。人に迷惑をかけない。困っている人がいれば手を差し伸べる。「お互い様」「お蔭様」という言葉を自然に使える。そうした積み重ねが、日本という社会を支えてきた。



天白区こどもソフトボール大会

信頼を積み重ねる

今日の政治は難しい時代を迎えている。国民の価値観は多様になり、唯一の正解を示すことは容易ではない。一方で、人口減少、安全保障、社会保障など、先送りできない課題は山積している。

国家は制度で成り立つ。しかし制度だけでは国家は続かない。最後に国家を支えるのは、人と人との信頼である。だからこそ政治に求められるのは、強い言葉ではない。何でもかんでも改革を叫ぶのでもない。次世代に引き継ぐための、責任ある決断である。

その決断を、謙虚さと節度を失うことなく積み重ねていく。それが私の政治である。

未来へ託す政治

一日では、未来はつくられない。一日では、人も育たない。地域も、産業も、国家も、一日では築けない。

長い時間をかけて受け継がれたものを、少しだけ良い形にして次へ渡す。

次の世代が「日本に生まれてよかった」と思える社会へ。
今日も、また一つ、積み重ねる。


保守団結の会